

女と男いきいきネット

ひと ひと
女と男いきいきネットワーク久喜・通信第33号 2021, 1, 8 発行

回想



平成十六年四月に結成された『女（ひと）と男（ひと）いきいきネットワーク久喜』。あれから十六年が経ちました。現在十七団体、九個人の会員で構成されておりですが、このコロナ禍のなか今年度はほとんど活動ができませんでした。六月恒例の久喜市との共催事業『男と女のつどい』も中止になり、例年十一月ごろ行われる学習会（予定では児童虐待防止をテーマにした学習会）も中止になりました。

が、展示会なら何とかできるのではなからうか？と考え、二〇二一年一月に久喜市役所一階ロビーにて、ネットワーク会員団体の団体紹介と児童虐待防止の展示を行うことにしました。

ところで、『女（ひと）と男（ひと）いきいきネットワーク久喜』は、どのような趣旨で設立されたのでしょうか？もう一度初代会長に設立時の経緯や思いを綴っていただいで、

もっと多くの市内の団体や個人の方々と『男女共同参画社会実現』のためにつながっていききたいな、と思うばかりです。興味を持たれた方は、ぜひ私達の仲間になってくださるようお願い申し上げます。

個々のエンパワーメントと豊かな地域づくりを目指して「女（ひと）と男（ひと）いきいきネットワーク久喜」が平成十六年三月二十四日に設立されました。設立検討委員会にも関わらせて頂いた者として、感謝と感激でいっぱいでした。更に、初代会長という大役を仰せつかり、大きな責任を感じて、この間活動してまいりました。

設立につきましては、平成十四年の一月に公募による「久喜市女性団体連絡協議会設立検討委員会」がスタートして以来、同意形成の過程を大切にしながら、二年余りの

『女と男いきいきネットワーク久喜』設立から十六年

初代会長 倉持睦子

検討を重ねて参りました。その中で、先進地での取り組みを学ぶために上尾市や秩父市への視察も行い、結成に至る経過や活動内容、それについての問題点なども率直に提示して頂きました。また、この視察を通して、他市の女性団体との意見交換や連携を図る





場としても、連絡協議会が必要であることを再認識しました。

多様な意見を検討した結果、久喜市としては、女性団体だけではなく各種グループや個人で構成するネットワークを形成し、より広い視点を取り込んだ活動を行うことで一致しました。上尾、秩父の両市には、視察で大変お世話になりました。また、設立に至りますまで、長期間、各方面の方々からご指導とご協力を頂きました。

を頂きました。

三月二十四日の設立直後から、会の組織作りをしながら、久喜市との共催事業である『男と女のつどい』の開催に向けて活動を開始しました。初めてのことでばかりで、戸惑うこともありましたが、会員一同、力を合わせて取り組んで参りました。

その後、四月の総会と記念講演会、六月の『男と女のつどい』、秋の学習会、二月のWith youさいたまフェスティバルへの参加、隔年の『久喜市いきいき女性議会』の市との共催、通信の発行等を十六年間続けてきました。

これからも、男女共同参画と共に世代間の交流や支援も視野に入れた活動で、相互の交流と情報交換を図りながら豊かな地域社会の形成を目標として行きたいと思えます。

「女と男のいきいきネットワーク久喜」は、活動の幅とネットワークの輪を広げるために、今後とも加入団体・個人を随時受け付けて参ります。皆様のご参加をお待ちして居ります。

団体紹介

「二期生現況報告」

代表 鈴木

令和元年度の総会を令和二年六月二十三日に開催して、令和元年度の活動報告、収支決算報告と令和二年度の活動計画収支予算案を提案、承認可決して懇親会となり閉会しました。

この総会后、令和二年度の活動は、コロナ感染症防止の主旨に沿って活動自粛の提案があり、みなさんの賛同を得ましたので、七月からの活動については休止としました。

もちろん「暫くの期間」で明確な日限はありません。それが現在に至っております。そろそろ、みなさんから集まってほしいんじゃない、という声が増えてきています。丁度、年末を控えて忘年会のシーズンです。状況判断が難しいです。今どきのオンライン会議のソフトを使って開催したい

エムツー

とも考えますが、何人が参加できますことかわかりません。やはりフェース。フェースがいい年代です。ワイワイがやがやがいいですね。みなさんとお会いできる日を楽しみに・・・。



オリーフの会

「この災難を乗り越えて」

代表 関

平和を願う女性メンバーを主として集まり、活動しています。環境問題、食の問題、未来を担う子ども達への関心を持って講師を招き、講演会を開いています。

環境問題では、洗剤に含まれる香料の人体への影響など指摘されるまで気がつかなかったことも多々ありました。食の問題としては、こと言われる種子の思わぬ影響に考えさせられました。

今年にはコロナ禍に明け暮れ、子ども達を取り巻く情勢も大きく変わりました。貧困層のコロナに対する溺さも指



摘されています。
なんとしても、この災難を
乗り越えて、以前のような活



動を！と願っています。

久喜おやこげきじょう



「子ども達に心の栄養を」

昌美
運営委員長 岡戸

久喜おやこげきじょうは一九六〇年代、テレビの普及で子どもたちの外遊びや実体験が少なくなっていくのを心配した大人たちによって九州で誕生し、その活動は全国各地に広がっていきました。現在も埼玉県内各地域、久喜市での活動は三十周年をむかえました。子どもも大人も“生の体験を通してともに育ちあうこと”を目指し、主に優れた生の舞台芸術を地域に届けています。生の舞台との出会いは私たちの心を揺り動かします。親子、仲間と共感し語り合うことを大切にし、安心して子育てできる居場所づくりや子どもを“やりたいな”と思うことを仲間といっしょに実現することができているのが久喜おやこげきじょうです。やりたい事が実現し、「楽しい。またやりたい。」という気持ちには心の栄養です。心がみたされた子どもは自信がつ

き、その自信は自ら生きる力になります。勉強も大事ですが、心が豊かでなければ人は生きていきません。私たちは観劇を通してそのお手伝いをしています。



久喜CAP

「安心・自信・自由」

代表 増田

知巳

「くきCAP」は、学校や園、児童養護施設、地域の団体などで、子どもへの暴力防止プログラム「CAP（キヤップ）」プログラムを実施している団体です。

CAPプログラムには、おとな向けと子ども向けがあり、どちらも参加体験ができるワークショップという形式でこないます。

「子どもワークショップ」では、「安心」「自信」「自由」という「子どもの特別に大切な3つの権利」を伝え、いじめや、虐待、体罰、誘拐、連れ去り、チカン、性暴力などのあらゆる暴力から、子どもたちが自分のこころとからだを守るためにできることを短い劇と話し合いを通して、楽しく学べます。

CAPでは、従来の「くしではいけません」と子どもの行動を制限するのではなく、子どもたちの力を信じて、「くしすることが出来るよ」と身を守るための行動の選択肢を一緒に考え、練習します。子どもたちは、劇を通して、暴力

にあつたときには、NO（「いや」と言う）・SO（逃げる、その場を離れる）・TELL（誰かに話す）という方法があることを学びます。

子どもたちの相談やサポートの受け皿作りとしても大切な「おとなワークショップ」では、子どもを孤立させないよう、子どもの人権を尊重して、子どもの視点にたったサポート方法を一緒に考えます。CAPプログラ

ムの企画や参加に関心のあ
る方は、ぜひ
一度、お問い
合わせくださ
い。



【連絡先】090-8104-7038（増田）

kuki_cap@yahoo.co.jp

【ホームページ】

<https://kukicap.jimdo.com>

久喜きょういくを 考える会

「多様な学び・育ち・ 生き方」

金田 裕美

代表

久喜きょういくを考える会ができるきっかけは、学校に行こうとすると体調が崩れ、学校に通えない子どもたちが年々増え続けていました。当時、教育・医療・心理の専門家といえども不登校の本質がつかめず、的外れな指示を出したりしていました。

ですから、無理解と思われる対応もあり、子も親や家族に振り回され、幾重にも追い詰められ、命の危機まで感じるようになりました。

親より苦しいのは子どもたちではないか。せめて親だけでも、子どもの生きようとする力を奪わないようにしたいと、互いの経験から学び合う会が発足。月一回の定例会、各地のネットワークとの学習会や合宿、行政の不登校支援の催しなどに参加し、つながりを大切にしてきました。後に「本音・弱音・おやじの会」もできました。子どもたちか

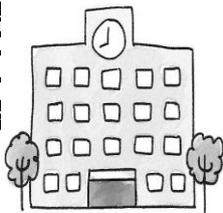
ら「多様な学び・育ち・生き方があることを教えてもらっています」。

三年前に教育機会確保法が施行され、休みの必要性や学校以外の学びの重要性など、不登校児童生徒への支援が初めて法律として明記されました。不登校自体が問題行動ではないとの見解が出てはいますが、近ごろ会に参加される若い親ごさんの辛い気持ちを

お聴きするたび、とても心が痛みます。今はコロナの影響で、お電話でのやりとりです。ほっとする居場所になりますよう、ゆつくり、ゆつたり続けていきたいと思えます。ご参加をお待ちしています。

久喜市商工会 女性部

女性部



「久喜市商工会・

女性部設立の思い」

杉田 栄子 部長

平成二十五年十二月、久喜市内の四商工会の合併により新たに久喜市商工会が設立され、久喜・菖蒲・栗橋・鷺宮の四支部の女性部も久喜市商工会女性部として新しく発足致しました。

当初は部員約二百八十名。各女性部が昭和五十年代に設立され約四十年余り。各地域の特色を残し、久喜市商工会女性部がひとつになり前進できるか、各地域に密着した事情をおこなうことができるか懸念しておりました。

しかし今期で八年目を迎え、各種講習会、先進地視察などの研修活動、子育て支援や一斉美化活動。部員相互の親睦活動など、女性としての特性を活かし、商工会の一員として、また地域の一員として部員一丸となり取り組んでおります。これからも全部員協力のもと、地域の皆様方と共に魅力ある地域づくりを目指して取り組んで参ります。何卒ご指導、ご鞭撻頂きますようお願い申し上げます。



※手作りマスクを一四三五枚
久喜市に寄贈しました！

「平和のために」

代表

倉持 睦子

『ルワンダを知り、平和を考
えよう』と1996年にスター
トした団体です。悲惨な虐殺
を経験したルワンダですが、
現在はアフリカの奇跡とも呼
ばれる発展を遂げ、女性国会
議員の割合は世界一位です。
しかし、発展に取り残され其
の日暮らしをしている人も多
く、支援を必要とする子ども
が沢山います。

『平和維持のためには教育
が何より大切』とルワンダで
学校作りを進めるマリールイ
ズさんに賛同して活動を支援
しています。男と女のつどい
やMVフェスティバルにも毎



回参加してルワンダに関する
展示やマリールイズさんの講
演会を開催しています。また、
関連団体と連携した活動も行
っています。

久喜市舞踊協会

「歴史を引き継いで」

会長 坂東

葵美寿郎

久喜市舞踊協会は、昭和六
十一年設立、二年後に久喜市
久喜文化団体連合会に入会。
久喜市の文化祭、諸行事に参
加し文化芸能活動の発展に寄
与したいと活動しています。
当舞踊協会は、会員相互の親
睦を図ることはもちろん技芸
の研究にも力を入れ、毎年「春
の舞踊会」を開催、令和三年
四月四日(日)には三十四回
目を迎えます。古典舞踊、新
舞踊、民謡など地域の皆さん
も楽しみにご来場下さいます。
また、久喜東小のゆうゆう
プラザ(放課後子ども教室)
で日本舞踊の指導を行って、
十年になります。子ども達が
将来、日本舞踊を志すように
なったら嬉しいです。四〇〇
年の歴史を持つ日本舞踊が消
えることがないように！そ
んな気持ちで胸に頑張ろうと、
一同気を引きしめていますこ
ろです。

子育てステーション たんぼぼ

「子ども達の笑顔を守るために」

代表 内海 弘美

私たち「特定非営利活動法
人 子育てステーションたん
ぼぼ」は地域で子育てを応援、
お手伝いする団体です。現在
は、久喜駅前・クッキープラ



ザにて小規模認可「たんぼぼ保育園」と子育て支援センター「クッキー子ども広場」を運営しています。認可保育園では、生後二か月から三歳児までのお子様をお預かりしています。

久喜駅直結の利便性から電車通勤の保護者様をはじめ無料地下駐車場から保育園まで雨に濡れないアクセスで自家用車の保護者様にもご利用いただいております。「モンテッソーリ教育」を取り入れ、子どもの自分を育てる力を引き出す保育に取り組み、子ども達の笑顔を引き出す毎日のお手伝いをしています。支援センターでも、地域密着型の活動を心掛けた活動を行っています。地域の子育て中の家族に寄り添えるイベントの開催や施設の開放をして、親子で過ごせる空間を提供しながら育児相談なども随時開催しています。コロナ禍の今、子ども達が安心してのびのび過ごせる空間。男女共同参画を見据え子ども達の安心安全を考慮していききたいと日々考え工夫し、活動しています。

コロナ禍という急な状況の変化により、マスク着用・ソーシャルディスタンスなど日常生活も変化し、子ども達も不安になっています。これからの日常も少しずつ変化させていかなければならないと感じ、子ども達の受け入れ態勢も安心安全から消毒衛生を重視した



ものへ、活動内容も密接を避け親子参加型から子ども達の発表型へ、またイベント内容もコロナと寄り添える内容のマスク作りや衛生指導へ変化を強いられています。

子ども達の笑顔を守るために私たちは大人が何ができるか、何をすべきか・・・みんなで一緒に考えていきたいと思います。

女性問題学習グループ

「なの花会」

「創立三十周年」

会長

後上 民子

なの花会は平成二年九月二十六日に発足し、令和二年九月二十六日に丸三十年を迎えました。

なの花会では、五年の節目毎に記念誌を発行しています。五周年記念誌と二十五周年記念誌には、その期間に開催した公開講演会の講演録や会報なの花、各種の活動記録などが収められており、折節に読み直すと懐かしさと共に大変貴重な記録であることを実感します。

今年が創立三十周年となることから、今年度最大の事業を記念誌発行と決めて種々準備を進め、去る九月二十六日に六冊目の記念誌「なの花会三十周年記念誌」を発行したところです。

三十周年記念誌には、昨年二月に開催した男女共同参

画講演会「人生一〇〇年時代口腔ケアで健康長寿」の講演録や、なの花会オリジナル紙芝居「男女共同参画で健康長寿二〇二〇年版」の絵とシナリオ、会報なの花などを収録しています。十月の定例勉強会では、収録した講演録を皆で輪読、講演会で聞き逃したり忘れてしまったたりした情報を改めて確認しながら、歯の健康を維持することの大切さ・難しさを話し合いました。

発足三十年を過ぎ會員の高齢化も進んでいるため、今後は自分たちの健康長寿を目指して、定例勉強会での情報交換や「久喜けいわ」でのボランティア活動等に軸足をシフトしつつ、男女共同参画社会の形成発展にも寄与してい



30周年記念誌

新婦人の会

久喜支部

「ジェンダー平等」

支部長

篠崎 節子

新日本婦人の会（新婦人）は暮らし、子育て、平和など女性の願いを実現するために活動し、持続可能でジェンダー平等の社会を目指しています。平和の取り組みでは、「ふたたび被爆者をつくるな」「ヒロシマ・ナガサキを繰り返すな」と核兵器廃絶を訴える宣伝行動をしています。さらに、子ども達が安全に暮らせるようにと放射線量測定も行っています。

久喜支部には、たくさんサークルがあります。親子で楽しむ「親子リズム」、年を重ねても動けるようにと「ダンベル」「ヨガ」、高齢の会員からの要望で始まった「ゆるゆる体操」、頭も手も心も使いおしゃべりしながら楽しむ「新聞ちぎり絵」「つるし雛」「俳句」「パッチワーク」、響き合う心地良さを感じる「コーラス」。そして、毎週発行される



新婦人しんぶんを読み、会員相互の交流を深め、暮らしやすい社会になるよう力を合わせていきたいと思えます。

ヒッポ

ファミリークラブ

多言語交流を！

代表 関根寿美子

国や人種の違いを超えて、どんなことばを話す人ともコミュニケーションできるようなれたら。そんな思いから「2017年多言語（いくつものことば）を自然習得（母語

の習得プロセス）するヒッポファミリークラブは誕生しました。（久喜地域は「2017年（活動）本来、人間誰もが「どんなことばでも」「いくつでも」話せるようになるチカラを持つています。世界の半分以上の国では三つ以上のことばが話されています。

ヒッポファミリークラブは、そんな国々の「多言語の環境」の中で育った赤ちゃんがいつの間にか母語として幾つものことばを習得するプロセスで、家族や、仲間たちと一緒に多言語を身につけていきます。また、地域の国際化への一助として、講演会や公立幼稚園・公立保育園、小学校から依頼を受けた国際理解授業なども実施しています。

◆多言語活動参加者の体験談◆
☆この活動を始めて十か月。家の中では、いろんな国のことばの音源が流れています。難しいことは考えずに聞き流すだけの毎日。子育て中の私にとっては気楽。五歳の娘は、スペイン語の自己紹介がスラスラ言えるようになりました。一歳の娘はバイバイの手を振

る仕草をしながら「ツイッエン」と言っている?! そんな子どもたちのように私も真似しながら、ことばを知る日々を一緒に楽しんでいます。（一、五

歳女子 母）
☆私は幼い頃から、多言語に触れてきました。高校時代のフランスへの一年間の交換留学や大学三年の春休みを利用して六週間行ったアフリカのトーゴでのインターンシップを通して、最近特に「ことばは関係性の中で育つ」と感じています。

（大学三年女子）
今年には日本も含め世界中未曾有のコロナ禍で、私たちの活動も大きな影響を受けています。毎年企画の各講演は、考え抜いた結果オンライン（Zoom）など工夫をしながら開催しました。国際理解授業は中止です。世界の人の受け入れや各国へ出かける交流（共にホームステイプログラム）は、基本的に中止。（留学は縮小の形ではありますが、再開。）

地域の活動は、公民館使用不可の状況の時はオンライン



(Zoom)でした。現在は公民館が使用できるため、ソーシャルディスプレイを保てるよう広い施設を利用して活動を再開しています。

★地域担当連絡先..

TEL 090-5322-9536

(関根)

社会福祉法人 たいむ共生会



「ノーマライゼーション」

理事長 若林

敬子

今年度四月より新たに出發しました「社会福祉法人たいむ共生会」です。約二十年前にハローハンドイキヤップ・タイムが誕生し、我が子のハンデのあることを「ハロー」と言っ

かり受け止め、前向きに考えることから始まり、その後過ぎゆく時間(タイム)をそれぞれの成長に合わせてゆっくり刻んでいくように名付けましたが、事業を進めていく中で「人は、支え合い・助け合う中で共に生きていく」ということを痛切に感じました。その思いを共生会という法人名に託しました。

さて、二十年近く支援に携わっていると未就学児だった利用者も成人を迎え成長期・思春期と時を経て大きく成長してきています。毎日の変化は一進一退にしても長い月日には大きく成長が見られるので、あせらず・めげず・ゆっくりと利用者に向き合い寄り添っていくことが大事だということを肝に銘じ法人運営に携わって行こうと思っ

ています。
ところで、寄り添う支援とは、どういうことでしょうか？支援者のプライドや肩書を無くし、同じ立場で考え行動することだと思ひます。
たいむは、「肯定語を使いなが

ら、穏やかに諭すもしくは、注意する」

を原則に「呼び捨て・叱る・命令する・怒る」は、絶対にしていないことを職員全体で共有しています。ときとして、支援から指導に変わってしまいがちですが、あくまでも支援をさせてもらっているという認識のもと謙虚な気持ちで利用者様に接していくことが重要だと思っています。

また、日常事故にまではならないまでも、ヒヤリハットや利用者様からの苦情等は、それぞれすぐに報告・検証していくことで虐待防止、または差別解消につながると思っています。
「たいむ」の基本理念は変わらず継承し、『寄り添う支援』を基本に、あせらずゆっ

くり進んでいきますので今後とも宜しくお願ひいたします。

.....
「女と男いきいきネット構成団体」

●久喜地区更生保護女性
会・久喜支部

●杉の子会

●ネットワーク子どもがま
んなか久喜

●他 個人会員七名
【編集後記】

コロナ禍の中、各団体思うように活動ができませんでした。そこで、一月十日から久喜市役所一階ロビーで「展示会」を行うことにしました。皆さん、ぜひ足をお運び下さい。コロナに負けず、頑張りましょう！（進藤）

【発行】

女と男いきいきネットワーク久喜

代表 内海弘美(21)8825